

---

# バカとXと召喚獣

吉良飛鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとXと召喚獣

### 【コード】

N3900W

### 【作者名】

吉良飛鳥

### 【あらすじ】

機動新世紀ガンダムXとバカとテストと召喚獣のコラボです。

正直、思いつきで描いてしまいましたorz

徐々に、Xのキャラを出していくつもりです。

あの兄弟とかあの兄弟とかあの兄弟とか……………

ついでにというとXの原作ほとんど無視です

第一問 お前は、疑いの余地の無い真正銘のバカだ！！

春の日の朝、ガロード達は文月学園の校門前で振り分け試験の結果を貰っていた。

ガロード「ウツース鉄人！」

ウィッツ「おはようございます鉄人」

ロアビィ「おはようございます鉄人先生」

トニヤ「オハヨー、鉄人」

サラ「おはようございます、西村先生」

ティファ「おはようございます、西村先生」

と目の前にいる、MSを連想させるようなガタイの先生に敬意を込めて挨拶をする面々

そのモバイルスーツが西村先生こと鉄人

鉄人「おはよう、ってまともに挨拶が出来るのはサラとティファだけか？」

と青筋を立てている。

ガロード「そんな細げえこと気にしていると、寿命縮んじまうぜ鉄人」  
鉄人「誰の所為だと思ってるんだがガロード」

サラ「それよりも振り分け試験の結果を・・・」

と、会話に入る。

ガロード「そうだけ鉄人！俺は今回のテストAクラスはムリでも、  
B・Cあたりは狙えてるはずなんだぜ」

この言葉に、ガロードと鉄人とティファ以外、「なんでそんなこと  
いえんだろう？」と心から思っている目をした。

鉄人「ガロード、今だから言うが、俺は吉井とお前をひよっとして  
こいつらはバカなんじゃないかと疑っていた」

ガロード「それは、大きな間違いだぜ鉄人。そんなこといってると

節穴があいてるなんて言われちまうぜ？」

鉄人「ああ、そうだったな。今回の結果を見て、心からそう思った。悪かったな疑ったりして。」

ガロードが封筒からクラスの書かれた紙を出す。

鉄人「お前は、疑いの余地の無い真正銘のバカだ！！」

ガロード・ラン：Fクラス

そして他の面々も封を空けていく

二年

トニヤ・マーム：Eクラス

ウィッツ・スー：Cクラス

ロアビイ・ロイ：Bクラス

ティファ・アディール：Aクラス

三年

サラ・タイレル：Bクラス（クラス代表）

## キャラクター紹介

ガロード・ラン

クラス：Fクラス

得意科目：日本史、世界史

苦手科目：現代国語

召喚獣：ダブルエックスD Xを召喚獣にした感じ

武装：DX専用バスターライフル×1

ハイパービームソード×2

ツインサテライトキャノンデیفエンスプレート×1

腕輪：ツインサテライトキャノン二重衛星砲（一回につき100点消費）

ティファと恋人関係

トニヤ・マーム

クラス：Eクラス

得意科目：特になし

苦手科目：ほとんど全て

召喚獣：本人をそのまま小さくした感じ

武装：マシンガン

腕輪：全体的に点数が低いため腕輪能力なし

ウィッツと恋人関係

ウィッツ・スー

クラス：Cクラス

得意科目：公民

苦手科目：化学

召喚獣：ガンダムエアマスターバーストに召喚獣にした感じ

武装：バスターライフル×2

腕輪使用時の武装：ノーズビームキャノン×2

腕輪：飛行形態フアイターモード（1秒につき10点消費）  
トニヤと恋人関係

ロアビィ・ロイ

クラス：Bクラス

得意科目：保健体育

苦手科目：数学

召喚獣：ガンダムレオパルドデストロイを召喚獣にした感じ

武装：ツインビームシリンダー×1

ブレストガトリング×2

ホーネットミサイル×2

11連ミサイルポッド×1

ヘッドビーム砲×2

ビームキャノン×2

ショルダーランチャー×4

腕輪：全弾発射フルバースト（一回の使用につき50点消費）

腕輪なしでフルバーストをされるとチート以外の何者でもないので、フルバーストできない使用になっている。

個々の武装の組み合わせは可

自称、自他共に認めるナンパのスペシャリスト

ナンパしてはFFF団に処刑される

ティファ・アディール

クラス：Aクラス

得意科目：物理、数学

苦手科目：特になし

召喚獣：ガンダムXを召喚獣にした感じ

武装：シールドバスターライフル×1

大型ビームソード×1

腕輪：衛星砲サテライトキャノン



## 第二問  こんな設備で不満はないか？（前書き）

### 問題

『調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を1つあげなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点：マグネシウムは炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険であるという点』

合金の例：ジュラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので鉄ではダメと言うひっかけ問題なのですが、姫路さんは引っかけかりませんでしたね。

7

土屋康太の答え

『問題点：ガス代を払ってなかった事』

教師のコメント

そこは問題じゃありません

ガロード・ランの答え

『合金の例：ルナ・チタニウム合金』

教師のコメント

知っている合金名を出せばよいと言う問題ではありません



吉井明久の答え

『合金の例：未来合金（　　）　　すごく強い（　　）』

教師のコメント

すごく強いと言われても

## 第二問　こんな設備で不満はないか？

ガロード「ちええ自信あつたのになあ」

ガロードはクラスの紙を貰ってからずっとブツブツ言っているサラ「でも、結果は結果でしょ？あ、この階段上つてくから後でね」と、3年の階へ向かう。

ウィッツ「俺達も行くか」

そして2 - A前

ティファ「私は、ここだから」

ガロード「す、スゲー」

目の前にはリクライニングシートにシステムデスクさらには備え付けの個人エアコンに冷蔵庫までという、なんともホテルのような豪華な設備が整っていた。

ウィッツ「いつまでも見とれてねえでさっさと行くぞ」とガロードを引っ張る

ロアビィ「じゃ、あとでなティファ」

トニヤ「ガロードをしっかりと勉強させればいいかもよ」と自分の教室へ行く

BクラスはAクラスに劣るものの

エアコンがある教室

Cクラスは普通の学校の普通の教室

Eクラスはボロい木の机と木の椅子

そしてFクラスは………

ガロード「格差社会だ………!!!」

腐ってキノコが生えてる豊

ボロく、綿の入っていない座布団

そしてボロイ卓袱台

更には隙間風が入ってきて寒いし埃っぽいし天井にくもの巣が張っている

但し、席は決まってなく自由席

ガロード「はあ、こんなところですよか・・・」

早くも現実を目を染めなくなるガロードだった。

そして、遅刻してガロードの悪友、吉井明久が入ってきた。

そしてHR

「えー、おはようございます。私がFクラスの担任を務めます、福原慎です。よろしくお願いします」

と、黒板に手を伸ばすがやめた。

ガロード（チョークすらまともにねえのかよ。しかも、よく見たら黒板消しすらねえじゃねえか）

担任「後で申請しておきますので、授業には間に合いません」

ここで、全員が改めて、ここが最悪の環境であることを実感した。

担任「皆さん全員に、卓袱台と座布団は支給されてますか？ 不備があれば、申し出てください」

生徒「俺の座布団、綿が入ってないんですけど」

担任「我慢してください」

生徒「俺の卓袱台、脚が折れてます」

担任「木工ボンダが支給されてるので、後で自分で直してください」

生徒「窓が割れてて、隙間風が寒いんですけど」

担任「ビニール袋とセロハンテープを申請しておきますので、後で直してください」

生徒の質問に答えていくが、ざっくり言うとい我慢しろかなんとかしるのどちらかだ

担任「では必要なものがあつたら、極力自分で調達する様にしてください」

ガロード「これが現実か……」

担任「そういう事です。これがこの学園の方針ですから、不満があるならしっかり勉強して来るべき試召戦争に勝ちあがってください。それでは、自己紹介をお願いします。そうですね、廊下側の人からお願いします。」

そして、廊下側の女の子らしい男子が立った

「木下秀吉じゃ、演劇部に所属してある。今年1年、よろしく頼むぞい」

コイツとは去年知り合ったが今は仲がいいほうだ

「……土屋康太」

と今度は特徴の無いやつが立った

ちなみに、趣味は盗撮、特技は盗聴だったはずだ。

「島田美波です。海外育ちで日本語は会話ができるけど、読み書きが苦手です。あ、でも英語も苦手です。育ちはドイツだったので。趣味は……」

一旦区切り、明久をちらりと見て一言。

「吉井明久を殴る事です」

なんとも恐ろしい女子だ！！

当人はひざを抱えてガタガタ震えてる  
そしてガロードの番

「ガロード・ランだ！よろしく頼む」

「次は、僕だね。」

「僕の名前は吉井明久。気軽にダーリンって呼んでね」

「……ダー……………リン」「……」

「……やっぱ忘れてください」

ガロード（明久完全に自爆だな）

そこに、ピンクの髪の色をした守りたくなるような巨乳の女子がきた  
女子「遅れてすみません。保健室に行っていました」

担任「今、自己紹介をしているので姫路さんもしてください」

姫路「はい、えっと。姫路瑞希ですよろしくお願いします」

男子「質問です」

姫路「はい、なんででしょう？」

男子「なんでここにいますか？」

聞きようによつては失礼だが、みんな疑問に思っていた。

実際、姫路はAクラス並の学力があるのだ。

姫路「はい、テスト中に熱を出してしまって」

すると、いいわけ大合唱が始まった

「そつえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

「ああ、化学だろ？ あれは難しかったな」

「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

「黙れ1人っ子」

「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」

「今年一番の大嘘をありがとう」

姫路は逃げるように明久と雄二の間の席に入る

明久「姫」

雄二「姫路」

姫路「あ、はい。何でしょうかえ」と・・・」

雄二「代表の坂本だ。坂本雄二。よろしく頼む。」

姫路「あ、姫路瑞希です。よろしくお願いします。」

と改めて自己紹介する

ガロード「それで体調は良くなったか？」

明久「あ、それ僕も気になる」

姫路「ガ、ガロード君と・・・吉井君!？」

雄二「& amp; ガロード」「姫路、明久が不細工ですまん」

姫路「そつ、そんな吉井君は全然不細工ではありませんよ？」

明久「え？」

姫路「目もパツチリしてるし、顔のラインも細くてきれいだし、その、むしろ……」

雄二「まあ確かに、悪くはないかもな。そういえば、俺の知人にも

明久に興味がある奴が居た気がする」

明久「え？ それは……」

姫路「そつ、それって一体誰ですか!？」

ガロード「姫路、落ち着け。身体に障るぞ？　しかし、随分と必死

だな？」

姫路「え？ そつそれは……」

明久「ははっ、姫路さんも色恋沙汰には結構敏感なんだ？」

姫路「そつその……はい。やっぱり恋をするって素敵な事だと思いますから、つい力が入ってしまっ」

そんななか、ガロードは雄二にアイコンタクトを取る

ガロード「(いいのかよ？ 行っちゃても?)」

雄二「(なんだ？ お前も知ってたのか。本人が聞きたがってたんだ問題ないだろ)」

ガロード「（ティファから聞いたんだよ。しかも、アレは精神衛生上よろしくないし、本人の副作用がハンパないぞ）」

明久「ねえ雄二、話の続き聞かせてよ？」

ガロード「聞いてもいいけど、その後現実逃避するなよ？吐くなよ？」

明久「？わかった」

ガロード「言つてやれ、雄二。俺は言いたくない」

雄二「え？ ああ、そうだな。確か、久保……利光だったか？」

久保利光 性別（ノオス）

現在Aクラス所属 学年次席

雄二「おい明久、さめざめと泣くな」

ガロード「いや、よりもよって男に恋愛感情持たれてるかも知れないなんて、普通こうなると思うぞ？」

雄二「……………確かに」

パンパン

バキィ！！パラパラパラ……………

担任「その人達静かにして……………くださいね？」

本人としては、軽くだいたいたつもりだろう。

だが、壊してしまった事は事実の為、少々気まずそうな態度に。

担任「え〜。代えを持ってきますので、皆さんは自習をしてみてくださいね」

生徒「どれだけ酷い設備なんだよ!？」

担任「これがFクラスです」

そして、明久が何かを思いついたようで、雄二を連れ廊下に出た  
姫路「吉井君と坂本君、どうしたんでしょうか？」  
ガロード「ティファだったら分かるかもしれんが、俺にはわかんね  
えや」

しばらくして、先生と共に雄二と明久が教室に戻ってきた。

担任「次で最後ですね。代表の坂本君お願いします」

雄二「了解」

雄二は教壇に上がり、俺らの方を向いた。

雄二「Fクラス代表の坂本雄二だ。俺のことは代表でも坂本でも好  
きに呼んでくれ」

雄二「さて、皆に一つ聞きたい

かび臭い教室。

古く汚れた座布団。

薄汚れた卓袱台。

Aクラスは冷暖房完備の上、座席はリクライニングシートらしいが  
ここで一呼吸置く

雄二「こんな設備で不満はないか？」

「「「「大ありじゃ！！！！！！！」」」」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ。代表として問題  
意識を抱いている」

「「「「そうだそうだ！」」」」

「「「「いくら学費が安いからと言って、この設備はあんまりだ  
！改善を要求する！」」」」

「「「「そもそもAクラスだって同じ学費だろ？あまりに差があり  
すぎる！」」」」



雄二「みんなの意見はもつともだ。そこで提案だが、FクラスはAクラスに『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う」

### 第三問 ああ、いつでも来い！（前書き）

#### 問題

以下の意味を持つことわざを答えなさい

- (1) 得意な事でも失敗してしまう事
- (2) 悪い事があつたうえに、更に悪い事が起きる喩え

姫路瑞希の答え

- (1) 弘法も筆の誤り
- (2) 泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら“河童の川流れ”、“猿も木から落ちる”、(2)なら“踏んだり蹴ったり”や“弱り目に祟り目”などがありますね。

ガロード・ランの答え

- (2) フロスト兄弟

教師のコメント

確かにそうですがまだ彼らはこの作品に出てきません

吉井明久の答え

- (2) 泣きつ面に蹴ったり

教師のコメント

君は鬼ですか

土屋康太の答え

(1) 弘法の川流れ

教師のコメント

シュールな光景ですね



雄二「おい、康太。いつまでも姫路のスカートの中をのぞいてないで、前に出てこい」

康太「……………！！（ブンブン）」

姫路「は、はわっ！」

低姿勢の覗きを指摘され、顔と手を必死に振って否定する少年。それが土屋康太

顔についた証拠を隠しつつ前に行く

雄二「紹介しよう。こいつがあ有名なムツツリーニだ」

ムツツリーニ「……………！！（ブンブン）」

ムツツリーニと言う名に、クラスがざわめいた。

その名は男子から畏怖と畏敬を、女子からは軽蔑を持ってあげられており、その他不明……の人がここに居る。

生徒「バカな、奴がそうだと言うのか？」

生徒「だが見る、いまだ必死に手で押さえて隠そうとしてるぞ？」

生徒「ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ」

ただ1人、瑞希だけは頭に疑問符を浮かべていた。

雄二「姫路の事は説明するまでもないだろう。皆だってその力は知ってるはずだ」

姫路「えっ？ わっ、私ですかっ!？」

雄二「ああ、主戦力だ。期待している」

才色兼備をそのまま表現したような彼女なら普通は主戦力だろう

生徒「そうだ、俺らには姫路さんがいるんだ」

生徒「これならAクラスにも引けを取らない」

生徒「姫路さん結婚して」

と、士気があがる。

雄二「更には、ガロード・ランと木下秀吉もいる」

実際、ガロードは700点越えと日本史と世界史において学年主席  
どころか教師並の点数を取っている

ことで有名だ。そんな彼がなんでFクラスにいるのかって？簡単な  
話だ。

その他が壊滅的っただけだが、今は内緒である

木下秀吉はAクラスの木下優子の双子の弟で、演劇部の期待のホ  
プである。

雄二「当然俺も全力を尽くす」

生徒「坂本って、確か小学生のころは神童とか呼ばれてなかったか  
？」

生徒「それじゃあ、実力はAクラスレベルが2人どころか教師レベ  
ルまで居るってことかよ？もしかしたら、やれるんじゃないか？」  
生徒「ああ、なんかやれそうな気がしてきた！」



そう、ここは学力最低クラス。考えるやつなんてほとんど居ないに等しいのである。

雄二「でも、これで俺の言わんということが分かったはずだ。もう一度聞く。こんなクラスに不満は無いか!？」

「「「大有りじゃああああ」」」

雄二「ならば全員剣<sup>ベン</sup>を持って!! 出撃準備だ!!」

「「おおー！ー！ー！ー！！」」

雄二「俺らに必要なのはAクラスの設備だ」

「「おおー！ー！ー！ー！ー！！！！！！！！！！」」

姫路「お、おー」

姫路は回りに飲み込まれるかのように小さくガッツポーズをしていた。

雄二「明久には、Dクラスへの宣戦布告の為の死者になって逝って貰う。無事大役を果たせ！」

明久「あのさ、普通下位勢力の宣戦布告の使者って、大抵酷い目に遭うよね? しかも今字が違わなかった?」

そこで、雄二は明久の方に手を置き、

雄二「明久、それはマンガや小説での話だ。普通大事な使者様をそんな風にするわけ無いだろ? だまされたと思って行ってみる。俺は友人を騙す事はしない」

おいおい普通だからって「はい、行きますよ」なんていうバカは・  
・  
・  
・  
・

明久「わかったよ、それなら使者は僕がやる」



……いた、目の前の身近なヤツに……

そして数分後

明久「騙されたよ！！！！」

雄二「やっぱりな」

明久「やっぱりってなんだよ！？」

雄二「代表がその位予想できなくてどうする？」

明久「少しは悪びれるよ！！」

そんな中、

姫路「吉井君、大丈夫ですか？」

美波「大丈夫、吉井？」

制服までぼろぼろにされた明久に、姫路と美波が駆け寄った。

明久「あ、うん。平気だよ、心配してくれてありがとう」

美波「そう、良かった……ウチが殴る余地は、まだあるんだ」

明久「ああっ！ もうダメ、死にそう！！」

雄二「そんなことより明久、もう後には戻れないぞ？」

明久「ああ、いつでも来い！」

#### 第四問 二つ見えても男じゃ（前書き）

##### 問題

『以下の説明が何を示しているかを応えなさい。  
宇宙という広大な生活圏を手に入れた人類が洞察力、認識能力が拡大し、肉体的、精神的にあらゆる物事を理解することができ、それが全人類に広がった時にかつてなしえなかった相互理解が可能となる』

ティファ・アディール、ガロード・ラン、トニヤ・マーム、ウィッツ・スー、ロアビィ・ロイ、姫路瑞希の答え  
『ニュータイプ』

##### 教師のコメント

正解です。因みにニュータイプの人為的開発のために人の体をいじられたりされてきました。また、ニュータイプではなく普通の人はオールドタイプと呼ばれていました。覚えておくとよいでしょう

吉井明久の答え

『宇宙人』

##### 教師のコメント

君は天才なのではないかと錯覚することがあります。

#### 第四問 二つ見えても男じゃ

?????side

今日から僕は昔の友人がいる文月学園に転入します。

自宅のアパートからでて学校に向かって歩いてみると

どごぞのチンピラ「おらおらお姉ちゃんたち俺達とあそばねえか？」

と双子の女子高生をナンパしている。

朝っぱらからナンパするなんてロアビィくらいしかいないと思って  
いましたが違うみたいですね。

女子高生「やめてください。行くわよ、秀吉」

と、ショートカットの女子高生がもう一人の女子高生の手を取り歩  
いていこうとする。

チンピラ「おいおい。そんなつれないこと言うなって」

とその女子高生の手を取る

ロアビィでも・・・微妙だ。やりかねないと言う事を否定でき  
ません。

でもロアビィは嫌がる子を無理矢理のような事はしませんね。  
とにかく助けましょう。

チンピラ「なあ、お小遣いやるからよっ」

?????「朝っぱらからナンパなんて精が出ますね」

チンピラ「ああ？なんだデメエ？やんのか？」

「???」「何をです？」

チンピラ「なら教えてやるよ！俺に逆らうと怖い目にあうってな！」

と顔めがけて殴ってくるがそれをしゃがんでかわしながら的確に鳩尾を殴る

そして倒れた所を踏みつける

「???」「先ほどあなたは興味深い事をおっしゃりましたね？あなたに逆らうと怖い目にあうと。しかし今その怖い目にあっているのはあなたではないですか？」

と、笑顔で言う。

これは戦闘狂と言うわけではなく、あえてこうする事で相手に恐怖心を生み出すことができる。

そしてそのままチンピラを蹴る

チンピラ「覚えてヤガレええ!!」

とどっかに走って逃げていった。

「???」「大丈夫ですか？」

と茶髪のショートカットの女子高生二人に声をかける

男子制服をまとった美少女「ありがとうなのじゃ」

と礼を言う

そしてその人に瓜二つの美少女が何故か顔を赤らめながら「ありがとう」と礼を言った。

私はそれに微笑し、学校の方へ向かおうとすると、

男子制服ではない方が、

「木下優子です。あなたは？」

と言ってきたので自己紹介をすることに

「カリス・ノーティラスです」

男子制服の方もつられるように

「木下秀吉じゃ。こっに見えても男じゃ」

と自己紹介してきた。でも、最後の言葉に、心を読まれたのかと少し思ったのは伏せておきます。

そして、自分達が同じ学年である事などを話しながら学校まで行きました。

第四問 ころ見えても男じゃ（後書き）

ガロード「更新忘れて俺らも出さねえのか？」

作者「ごめんなさい」

ガロード「やけに素直だな」

作者「だってころでもしないと、空野とかさやちゃんにフルボッコにされるもん」

ガロード「ここで他の作品持ってくんなよ。しかも更新遅いお前が悪いだろ」

作者「重々承知しております」

ガロード「まあ、いつか。もう遅れるなよ？」

作者「はい」

第五問 それにしてもこんな時期にね……………

今俺は、ティファ達とお昼を食べるためにAクラスへ向かっている。ロアビィとウィッツはもうAクラスにいるはずだ。

ガロード「おいティファいるか？」

とAクラスに入っていく。

そこでカリスにあう。

ガロード「よう！カリス！！ティファいるか……………  
つてカリス！？」

カリス「久しぶりですねガロード」

そこにティファ達がくる。

ティファ「ガロード、カリスが来ました」

ガロード「おう！みんなで屋上で飯食うか？」

ということ屋上にて昼飯

カリス「試召戦争？」

優子「あ、カリス君は知らなかったわよね？テストの点数によって強さのレベルが上がる召喚獣を使って、クラスの設備を巡って戦争するのよ。それにしてもこんな時期にね……………」

ガロード「ま、雄二なりに考えがあるんだろ？俺はそれにしたがっただけだしな。それより明久Eクラス戦はいつやるんだ？」

明久「今日の午後だよ。でも、基本数学で、今回はガロードをあんまり使わないらしいよ？」

ガロード「なんでだ？」

明久「これから上に上がっていくから切り札はとって置きたいんだ

つてさ」

ガロード「そっか。じゃあ俺はここで昼寝でもしておくか」

そして午後になりFクラスは勝つたらしい。だけど設備は交換しなかったらしい。理由は「俺達が狙うのはAクラスだ！」らしい。ま、雄二らしいといえば雄二らしいな



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3900w/>

---

バカとXと召喚獣

2011年12月24日09時53分発行